琉球大学学術リポジトリ

技術・家庭科の新教育課程に関する教師の意識　－沖縄県の場合－

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比嘉, 善一, 鈴木, 雅夫, 宜保, 美恵子, 平田, 哲也, 幸地, ヒロ子, Higa, Zenichi, Suzuki, Masao, Gibo, Mieko, Hirata, Tetuya, Kochi, Hiroko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/927

技術・家庭科の新教育課程に関する教師の意識

——沖縄県の場合——

比 嘉 善 一・鈴 木 雅 夫・宜 保 美恵子
平 田 哲 也・幸 地 ヒロ子

The Teachers' Consciousness on the new Curriculum of Technical and Homemaking Education

— The Case in Okinawa Prefecture—

Zenichi HIGA* Masao SUZUKI** Mieko GIBO**
Tetuya HIRATA*** Hiroko KOCHI***

(Received July 31,1987)

Summary

In order to grasp teachers' consciousness caused by the new curriculum, we have conducted an investigation by means of questionnaire on 350 Technical and Homemaking teachers. The summary of the respondence is as follows.

1) Their concern over the new curriculum is fairly high.

2) As to the objective of the Technical and Homemaking,63.7 % teachers prefer the existing objective unchanged.

3) As to the desired students' ability to be developed. there exists gap between Technical and Homemaking teachers in their opinion.

4) As to the question asking whether it was adequate to make 4 courses (Woodwork, Electrical,Food and Home Life) compulsory,less than half of the respondance agreed it was adequate.

5) As to the question "The contents of the subject should be reconsidered or not", many Technical teachers have pointed out" Metalwork 2",and Homemaking teachers "Dwelling" and "Clothing 1" to be reconsidered as to the contents of the subject.

6) As to the question "If new setup of the courses of the Basic Information and the Home Life is necessary or not",approximately 70 % responded it was necessary.

7) As to the question of the teaching hours, majority of the teachers expressed their opinion saying "It is necessary to increase teaching hours than current teaching hours".

*Tech. Edu., Coll. of Edu., Univ. of the Ryukyus
**Home Econ., Coll. of Edu., Univ. of the Ryukyus
***Attached Junior High School, Coll. of Edu., Univ. of the Ryukyus

I　はじめに

教育課程審議会は昭和61年10月20日,「教育課程の基準の改善に関する基本方向について」(中間まとめ）を発表した。改訂の方向は21世紀にむけて国際社会に生きる日本人をどう育成するかという観点に立ち,改善のねらいとして[1], 1）豊かな心をもち，たくましく生きる人間の育成をはかる。　2）自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視する。3）国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し,個性を生かす教育の充実を図る。4）国際理解を深め，我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視する。という4つの柱をあげている。その背景には今日の科学技術の進歩と経済の発展が物質的な豊さを生み，さらに情報化，国際化，価値感の多様化，核家族化，高齢化など社会の各方面に大きな変化をもたらしつつあり，これらが児童生徒の生活や意識に深い影響を及ぼしていることがあげられる。

中学校の技術・家庭科については、時代の進展や家庭の機能の変化等に対応する観点から，新たに「情報基礎」（仮称）と「家庭生活」（仮称）の領域を加え，11領域の中から3か年間で7領域以上を履修させることとし,「木材加工」,「電気」,「食物」及び「家庭生活」の4領域については、すべての生徒に履修させる方向で検討すると述べられている。これは現行の相互乗り入れ（男子には家庭系列から，女子には技術系列からそれぞれ1領域以上を履修させる）方式に比べて画期的な改訂と言えよう。「家庭生活」が設けられることで小，中，高校の家庭科に一貫性が確立されることで評価されるもののどのような内容が盛り込まれるものなのか不明である。この領域が教科の目標とどのように関連させた内容になるのか，整合性の面からむずかしい問題がある。

技術系列では,「木材加工」,「電気」ともこれまでの相互乗り入れの実績があり問題は少ないと思われる。しかし，このように必修の領域が増えることによって，他の領域からの選択の幅が狭くなり，学校の事情で選択されない領域が出てくる可能性もある。

授業時教については，第1学年と第2学年は週2単位時間で現行と変わらないが第3学年は週2～3単位時間と上限と下限が示されており，現行よりも1時間減になることも予想される。まとまった時間がとれないと，指導が困難になる領域もあり，時間数については問題があるのではないだろうか。また選択教科については，現行第3学年にある音楽，美術，保健体育，技術・家庭の4教科の選択を第2学年に移し，第3学年では全教科から選択できるようになっており，今日の激しい受験準備教育に一層拍車をかけることも予想される。現在，教育課程審議会の学校種別分科会や教科別委員会で具体的な検討が行われており，昭和62年10月には「審議のまとめ」を行い12月には最終答申を出すことになっている。これをもとに文部省は学習指導要領の改訂作業を行い，昭和68年度から新教育課程が実施される予定である。

本報告は沖縄県における中学校技術・家庭科の教師が「中間まとめ」に対して，どの程度関心を持っているか。また指導上，運営上の面で，1）新設される2つの領域　2）必修になる4つの領域　3）授業時間数の弾力化　4）選択教科の幅の拡大　などに対してどのように考えているか意識調査を行い，その結果をまとめたものである。

II　調査の概要

1　方　法

県内の6学級以上の公立中学校（86校）に勤務する技術科担当教師201名，家庭科担当教師149名，計350名を対象に，アンケート用紙を昭和61年11月に各校の技術・家庭科主任あて郵送し依頼した。回答記入後返送してもらい回収した。

2　回収率と回答者の内訳

回収率は70.0%で，回答者の内訳は図1の通りであった。

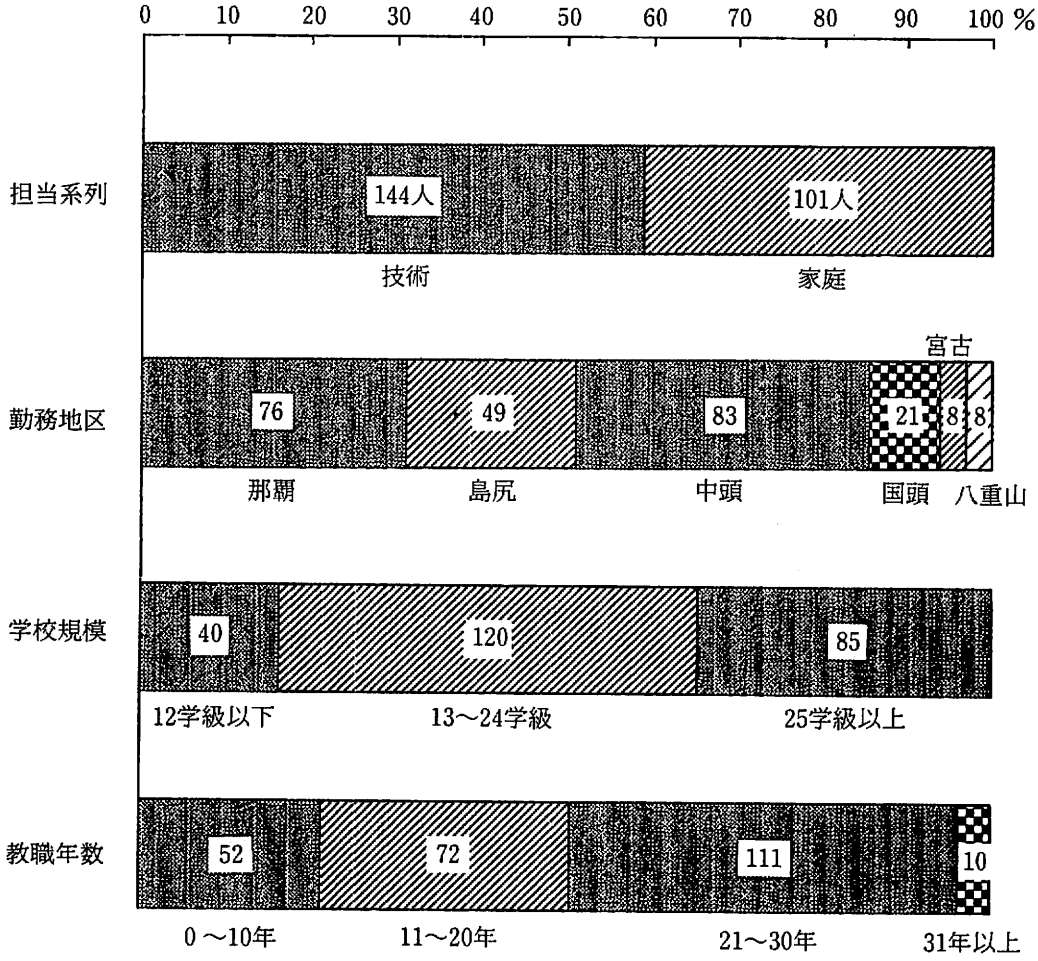

図1　回答者の内訳

III　結果及び考察

1　新教育課程についての関心

図2は教育課程審議会で審議されている新教育課程についての関心度を示したものである。「非常にある」と答えた教師が51.0%，「いくらかある」と答えた教師が43.3%で，両者を合わせると約95%となり，関心が高いことを示している。

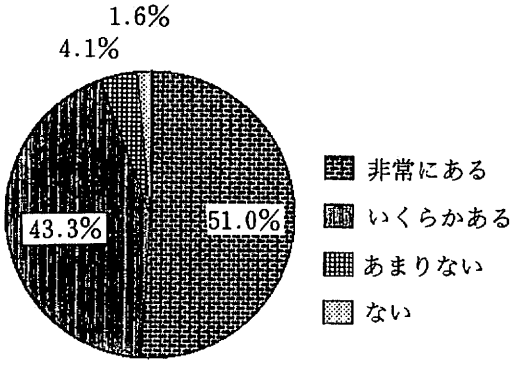

図2　新教育課程についての関心

2　技術・家庭科の目標

目標の記述については図3の通りで「現在の

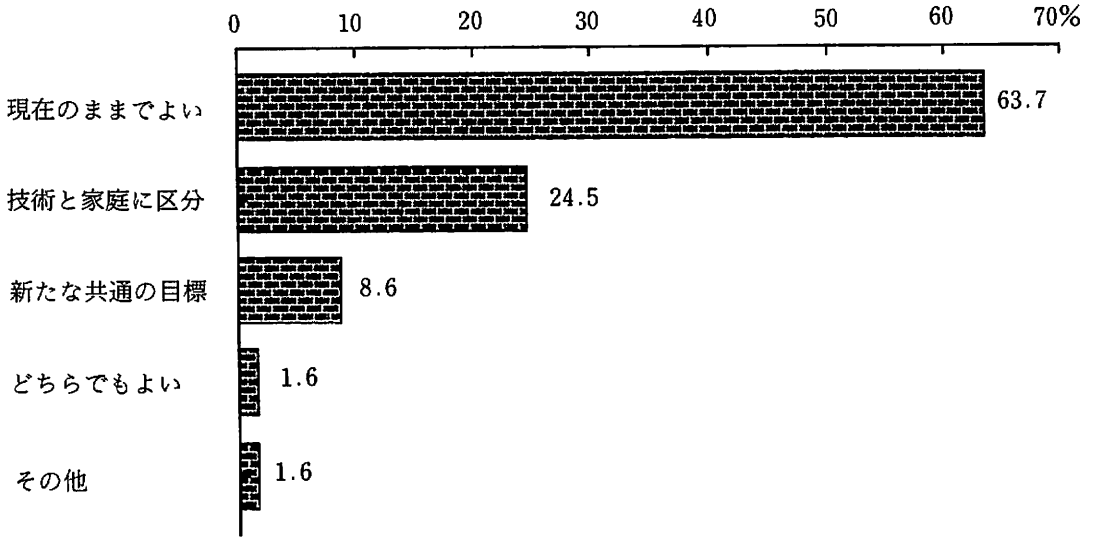

図3　技術・家庭科の目標

ままでよい」が63.7%と半数以上を占めている。「技術分野と家庭分野とに区分し，それぞれの目標を明らかにしたほうがよい」が24.5%と約1／4を占めるのは，技術系列と家庭系列とは目標が若干異なっていることを意識しているためであろう。「新たに共通の目標を設けたほうがよい」は8.6%と少なかった。従って現行学習指導要領に占めされている目標『生活に必要な技術を習得させ，それを通して家庭や社会における生活と技術との関係を理解させるとともに，工夫し創造する能力及び実践的な態度を育てる。』は適切であると思われる。

保健体育科の目標が保健と体育に区分されているように，「技術」と「家庭」に区分し分野別目標を設定すれば，よりいっそう教科の目標が明確になるのではないだろうか。

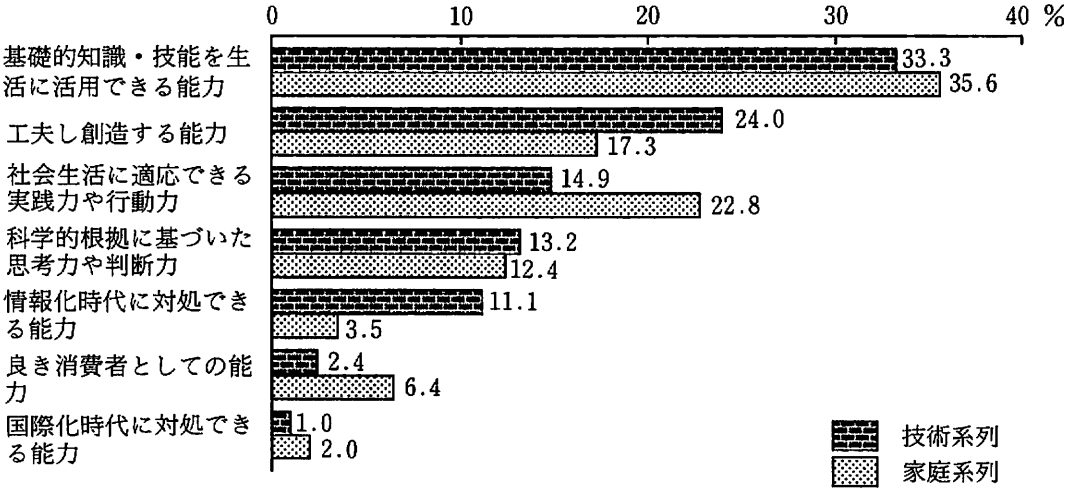

図4　技術・家庭科で養う能力

3　技術・家庭科で養う能力

図4は技術・家庭科で養うべき能力について示したものである。これによると「基礎的知識・技能を生活に活用できる能力」を養うべきであるとの考えが技術系列担当教師は33.3%，家庭系列担当教師は35.6%を占めている。次いで技術系列担当教師の場合は「工夫し創造する能力」24.0%，家庭系列担当教師の場合は，「社会生活に適応できる実践力や行動力」22.8%の順となっている。

技術系列では主として「基礎的知識・技能を生活に活用できる能力」と「工夫し創造する能力」を養うべきであるととらえているのに対して，家庭系列では「基礎的知識・技能を生活に活用できる能力」と「社会生活に適応できる実践力や行動力」を養うべきであるととらえており，両者間に多少相違がみられる。

4　木工，電気，食物，家庭生活の4領域必修

改訂案の木工，電気，食物，家庭生活の4領域を男女共に必修にすることについては，図5～6の通りであった。全体的にみると「適切だと思う」と回答したのが46.9%，「適切ではない」が32.7%，「わからない」という回答が20.4%となっている。担当系列別にみても，同様な傾向であった。

「適切ではない」と答えたおもな理由をあげると

1）　男女の特性を生かすべきである。

2）　他の領域の時間数が少なくなる。

3）　木工より他の領域（住居，栽培，保育，

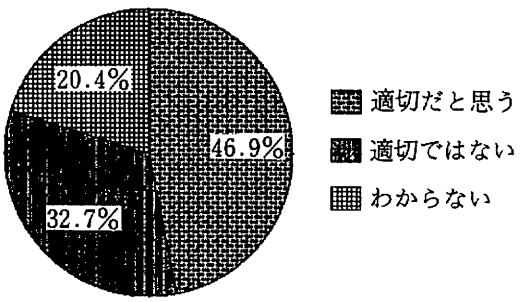

図5　必修領域

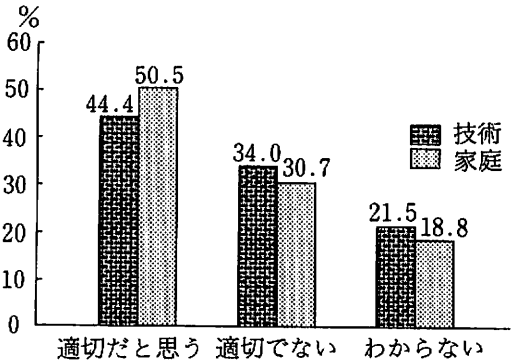

図6　必修領域（担当系列別）

情報処理関係）がよい。

4）　地域の実態に応じた選択がよい。

5）　従来通りの相互乗り入れ程度でよい。

6）　4領域を指定した根拠がはっきりしない。

7）　家庭生活を取り入れる必要を感じない。

8）　生徒が興味をもってとりくむとは思えない。

9）　もっと男女必修にしてもらいたい。

10）　家庭生活の領域は他教科でも学習することができる。

11）　内容に深まりがなくなりそうである。

などであった。4領域必修については今後とも多角的に検討を要すべきものと思われる。また領域については相互乗り入れの実態からでなく男女共に必要であると思われる基礎的知識や技能を身につけさせる視点から検討する必要があろう。

5　男女に必修にしたい領域

表1は木工，電気，食物，家庭生活の4領域を男女共に必修にすることについて，「適切ではない」と答えた方（技術42名，家庭29名）にどの領域を必修にしたほうがよいか，担当系列ごとに2領域ずつ選択させた結果である。技術系列では「電気・栽培」の組み合わせが11名で，次に「木工・電気」10名，「電気・情報基礎」が7名，「栽培・情報基礎」が6名，「機械・電気」3名の順となっている。

家庭系列では「食物・被服」の組み合わせが

表１　必修にしたい領域

単位：人

		機　械	電　気	栽　培	情報基礎
技術系列	木　工		10	1	1
	金　工	1			
	機　械		3	1	1
	電　気			11	7
	栽　培				6
		被　服	住　居	保　育	家庭生活
家庭系列	食　物	9	3	7	4
	住　居			3	
	保　育				3

９名で，次に「食物・保育」が７名，「食物・家庭生活」４名の順となっている。木工，電気，食物，家庭生活の４領域必修は「適切ではない」と回答した中で，必修にしたい領域として「木工・電気」，「食物・家庭生活」の組み合わせがあるのは，自分の担当系列については適切だと思うが他系列については適切でないということだと思われる。

6　学習形態

木工，電気，食物，家庭生活の４領域が男女共に必修になった場合，学習の形態はどのようにしたほうがようかに対する回答は図７の通りであった。全体的にみると「学年・領域によって異なる」という弾力的な考えが41.6％で最も多く，次に「男女別学」が28.6％，「男女共学」22.9％の順となっている。学習の形態については，生徒のレディネスや教材への興味，関心の度合，男女の特性などを考慮し，学習効果が上がる方法を採用したいということであろう。

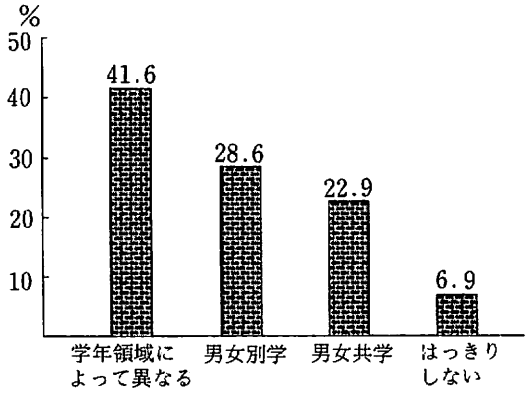

図７　学習形態

7　得意，不得意な領域

指導内容の得意，不得意によってカリキュラムに対する考え方が異なると思われたので，担当系列について得意，不得意な領域を調査した。

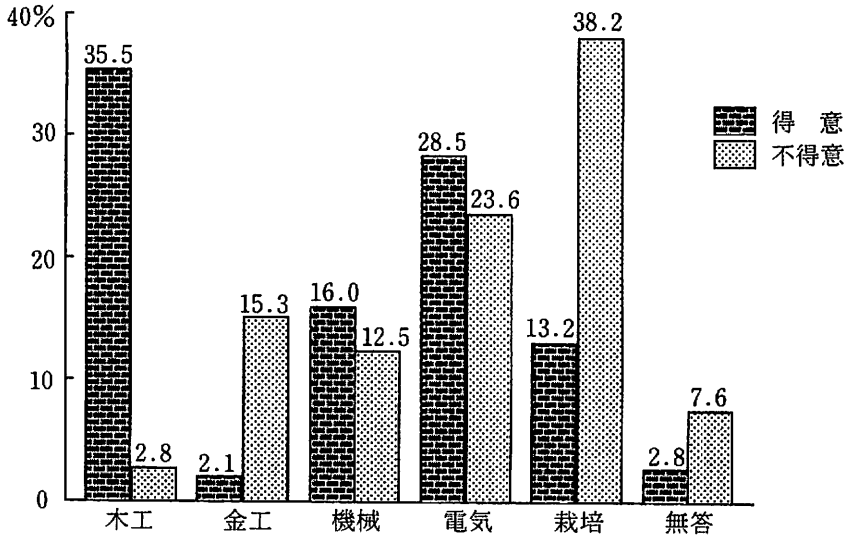

図８　得意不得意な領域（技術）

技術系列担当者の場合は，図８の通り得意な領域は「木工」が35.5%で最も多く，「電気」28.5%，「機械」16.0%「栽培」13.2%の順となっている。不得意な領域は「栽培」が38.2%で最も多く，「電気」23.6%，「金工」15.3%「機械」12.5%の順となっている。

不得意な領域として，「栽培」と「電気」が顕著に表れているのは，年令層によるものであり，「栽培」の不得意は教職年数０～20年に多く(29.9%)，「電気」の不得意は21年以上に多い(13.2%)。その理由として学生時代の専門教育の軽重や生活経験の違いなどが考えられる。

家庭系列の場合は図９の通りで，得意な領域は「食物」が45.5%で最も多く，「被服」40.6%，「保育」9.9%で「住居」は０%となっている。この結果を反映して不得意な領域は「住居」76.2%と顕著に表れ，他の領域は数%でほとんど差はみられない。「住居」が特に高くなっている理由として　1）　教科書の「住居」の内容が断片的で，配列に一貫性がないこと。2）「住居」の指導のための教材教具が少ないこと。3）　わかり易い住居の指導案や指導事例が少ないことなどが考えられる。

8　内容を見直すべき領域

図10，図11は現行の各領域の内容について，今後見直すべきであるとする領域を示したものである。

技術系列では「金工２」が32.6%と高く，他の領域は数%にすぎない。また「見直す必要がない」との回答が31.9%あった。

家庭系列では「住居」が32.7%で最も高く，次に「被服１」が20.8%，「見直す必要がない」が27.7%であった。

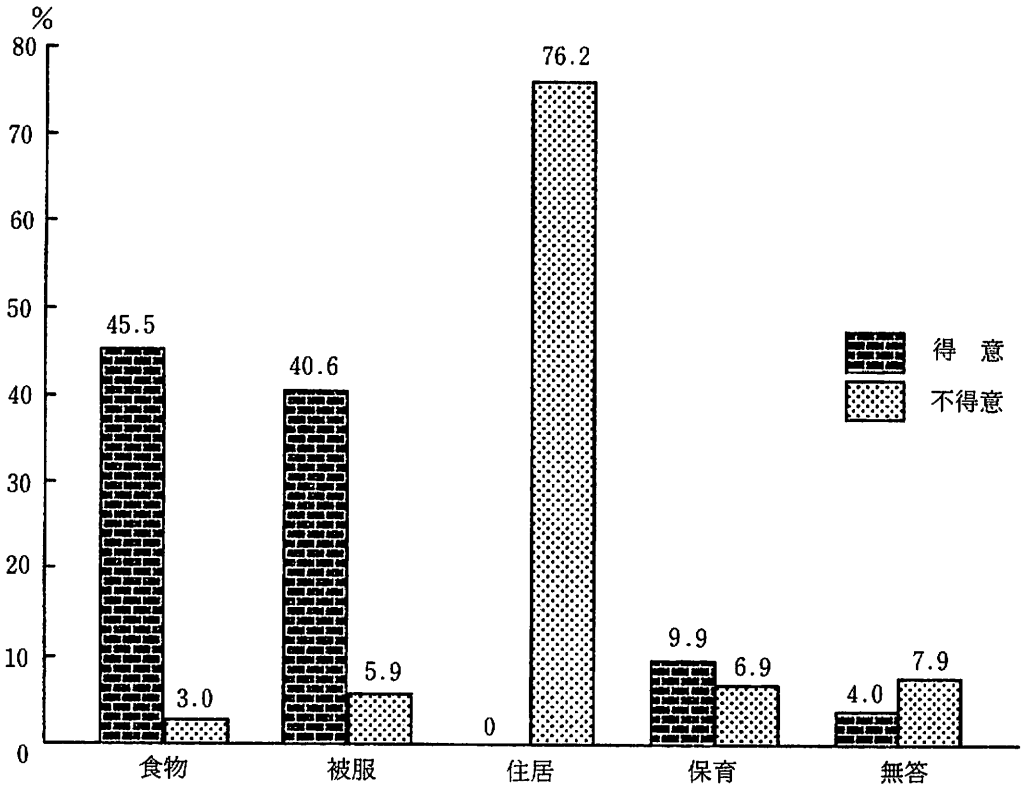

図９　得意不得意な領域（家庭）

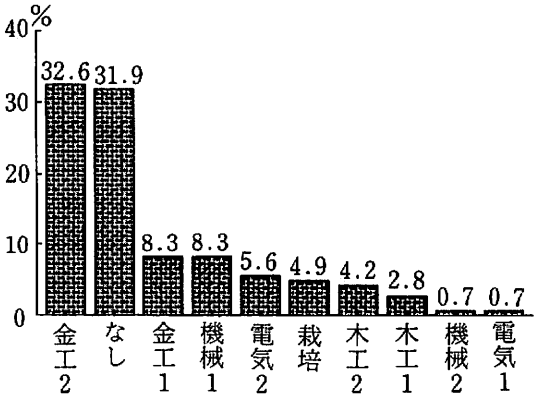

図10　内容を見直すべき領域（技術系列）

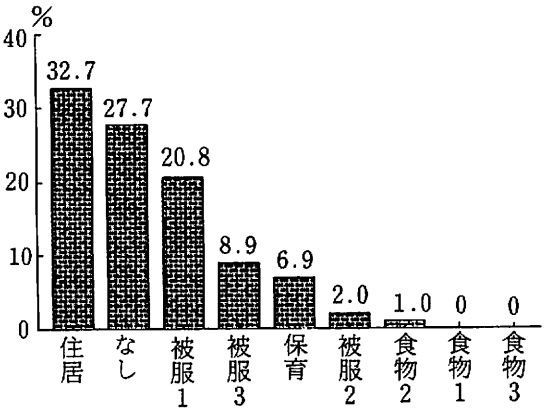

図11　内容を見直すべき領域（家庭系列）

表２　内容を見直すべき理由

単位：人

	理　　由	木工１	木工２	金工１	金工２	機械１	機械２	電気１	電気２	栽培
技術系列	１将来その必要性が減少する	2	2	10	23	3		1		
	２生徒の心身の発達段階に適していない		1		4	1			4	
	３生徒があまり興味を示さない	2	3	8	17	6			1	4
	４限られた時間内で習得させることが困難である		4	2	27	4	1	1	3	6
	５男女共修を進める上からふさわしくない		3	2	5	1			1	
	６内容が細分化され多岐にわたっている				5	2				
	７その他	1			2	2			2	2

	理　　由	被服１	被服２	被服３	食物１	食物２	食物３	住居	保育	
家庭系列	１将来その必要性が減少する	1		2				1		
	２生徒の心身の発達段階に適していない	7		1				4	5	
	３生徒があまり興味を示さない	10	2	3				17	3	
	４限られた時間内で習得させることが困難である	19		7				23	1	
	５男女共修を進める上からふさわしくない	8	2	2						
	６内容が細分化され多岐にわたっている	1						6	1	
	７その他					1		2	2	

※回答者は内容を見直すべきであると回答した技術98名，家庭73名である
※理由は複数選択可能

住居の場合は内容が教えにくいために見直しの要求が高いものと思われる。

9　内容を見直すべき理由

８で見直すべきであると回答した者（技術98名，家庭73名）に，その理由を複数選択させた結果が表２である。内容を見直すべきであるとの回答が多かった「金工２」については，「限られた時間内で習得させることが困難である」が27名，「将来その必要性が減少する」23名，「生徒があまり興味を示さない」が17名で多かった。上記の理由を具体的にあげると　１）　旋盤やボール盤などを使うようになっているが，生徒数に応じて台数が少ないため時間内で完成できないこと。

２）　やすりがけのような単純作業に多くの時間を要し，他の内容の指導に十分時間がとれないこと。

３）　題材として多く取り上げられているドライバ，ハンマー，ぶんちん等の製作に生徒があまり興味を示さない。などが考えられる。

間田氏が提案[2)]しているように，「生活に役立つ題材を選定する，機械や工具の使用を合理化する，使用材料と加工法に幅をもたせる」方向で内容を検討する必要があろう。

「被服１」の場合は「限られた時間内で習得させることが困難である」，「住居」の場合は「限られた時間内で習得させることが困難である」

と「生徒があまり興味を示さない」という理由が多かった。

その他の意見として，少数ではあるが

1） 機械は1つにしてよい。

2） 情報分野を入れてほしい。

3） 新生児，乳児期の保育を加えたほうがよい。

4） 保育で男女の性のあり方まで指導すべき。などの意見があった。

10 情報基礎，家庭生活の新設

情報基礎の領域を設けることについては，図12の通り「必要である」と回答したのが69.4%で半数以上を占めているのに対して「必要でない」としたのは13.9%と少ない。その他の意見として「電気の領域に入れられないか」，「内容がわからないので何とも言えない」との回答もあった。

家庭生活については「必要である」と回答したのが64.4%と多く，「必要でない」としたのは15.8%と少ない。

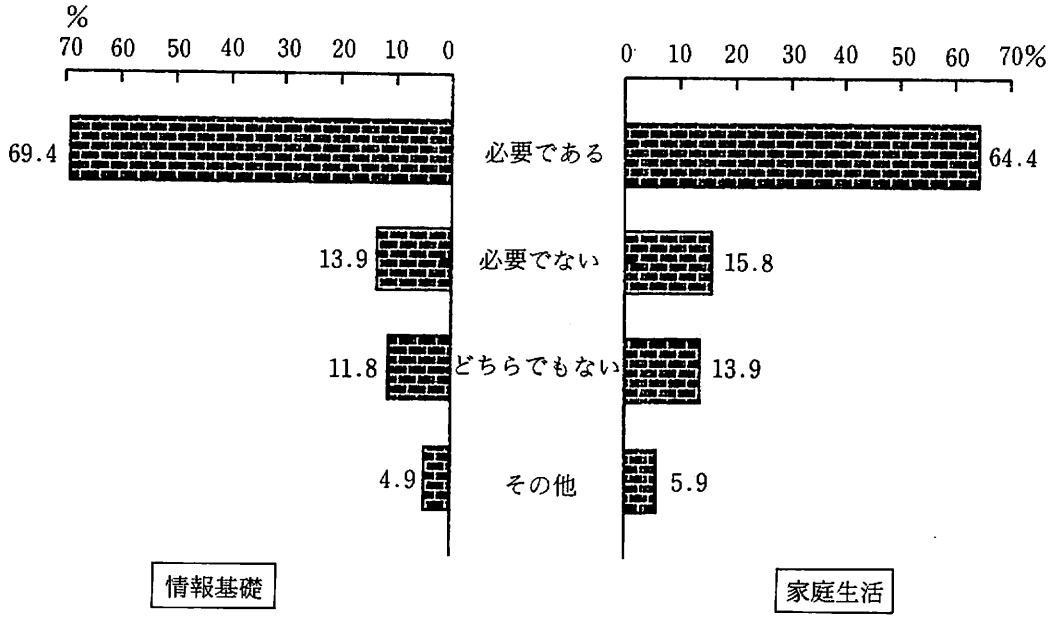

図12 領域の新設について

11 情報基礎，家庭生活の内容

10で情報基礎，家庭生活を設ける必要があると答えた者に，どのような内容が適当と思うかに対する結果が図13，14である。

情報基礎については「コンピュータの利用と生活」が39.6%で最も多く，次いで「コンピュータの基本的な構成と機能」27.9%，「プログラミングの基礎」24.9%，「データとその表現2進数など）3.6%，「論理回路の基礎」3%となっている。

家庭生活については「家庭生活の意義」が46%で最も高く，「育児と結婚」が28.6%，「商品の購入と消費」11.9%，「家族と高齢者の世話」8.7%，「自由時間の充実」4.8%となっている。「家庭生活の意義」が高数値を示しているのは，家族生活に問題の部分が多く，必要不可欠な内容であると受けとめているのであろう。

12 授業時数

改訂案では，授業時数が現在の2・2・3から2・2・2～3になり時間数の減少が予想される。これに対する答えは図15の通りである。第1位は「現行より減るのは望ましくない」と

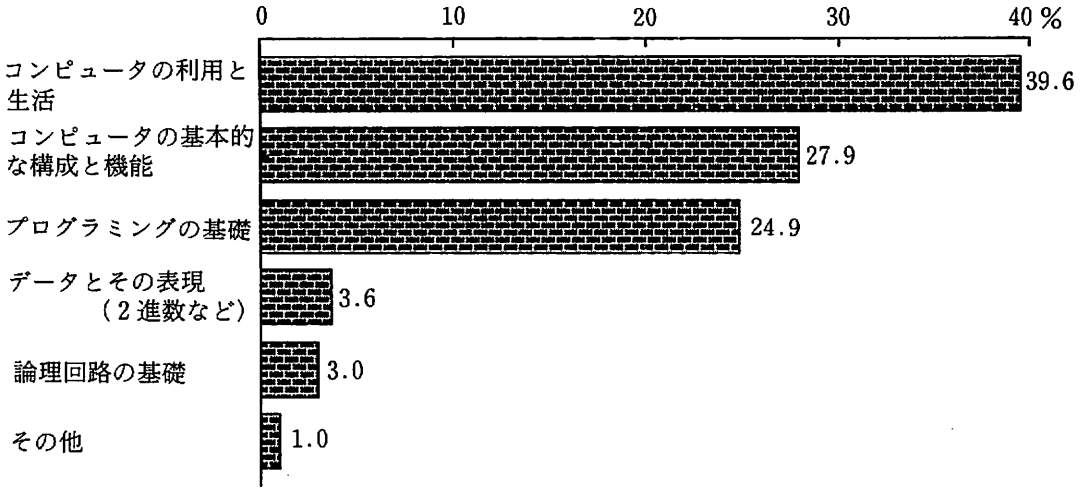

図13　情報基礎の内容

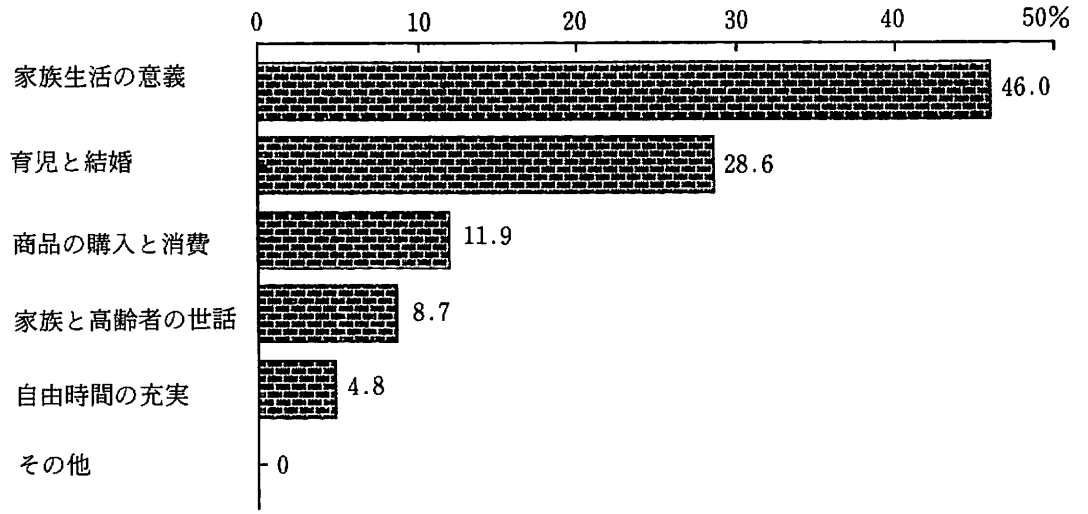

図14　家庭生活の内容

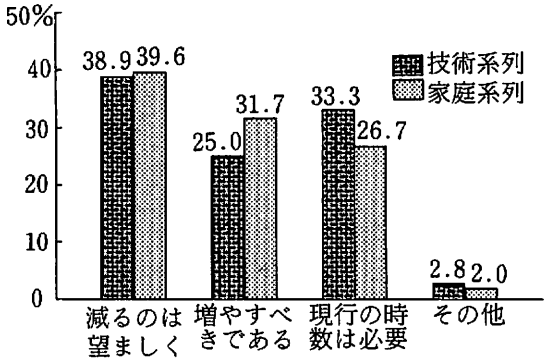

図15　授業時数

の意見が共に高く技術系列38.9%，家庭系列39.6%である。第2位は技術系列では，「現行の時間数は必要である」33.3%，家庭系列では「増やすべきである」31.7%，第3位は技術系列では「増やすべきである」25.0%，家庭系列では「現行の時間数は必要である」26.7%の順である。

このように技術・家庭科においては少なくとも現行以上の時間数は必要であり，特に家庭科

では「増やすべきである」との意見が多かった。その他の意見として「現行の3年の3は適当だが，2年の2は少ないので時間数を増やすべきである」，「2年と3年の時間数を入れかえる」という意見もあった。また少数ではあるが「3年も2時間でよい」，「2・2・2でもよいと思う」という消極的な意見もあったが，計画・製作・整備などの実践的，体験的な学習活動を通して行なわれる技術・家庭科の授業では，現行の授業時数は最低必要ではないだろうか。

13　選択の「技術・家庭科」

選択教科の中に「技術・家庭科」の教科名の指定がなくなることについてどう思うかに対しては図16の通りである。技術系列では「こまる」46.5%，「こまらない」43.1%で，「こまる」と答えた者がやや多く，家庭系列では「こまる」，「こまらない」共に40.6%の同率であった。

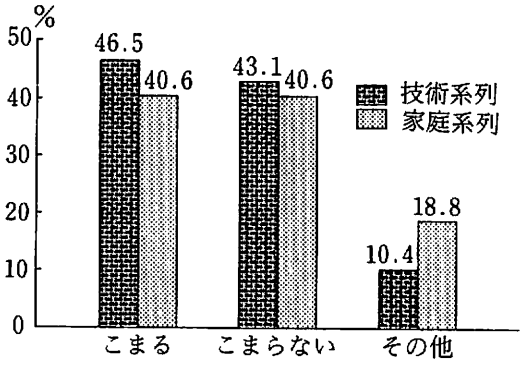

図16　選択教科の指定

「こまる」理由として，回答のあった92名について，その内容を類別し多い順にあげると次の通りである。

1）　授業時間数の削減や教員の削減につながる。
2）　主要教科を選択する可能性がある。
3）　体験的学習が出来なくなる。
4）　社会生活で必要な教科である。
5）　生徒の興味，関心の高い教科である。
6）　十分な指導が出来なくなる。
7）　教科の軽視につながる。
8）　その他

このように教科の指定がなくなることによって，授業時数の削減とそれに伴う教員の削減を予想するものが最も多く，次いで，今日の激しい受験競争の社会的状況から考えて主要教科を選択する可能性があるとするもの，体験的学習ができなくなる。人間として生きていく上で必要な教科である。現に生徒の興味，関心の高い教科であること，十分な指導ができなくなることなどが挙げられている。

14　新教育課程についての意見や希望

現時点においては新教育課程の最終答申が出ていないためか回答のあったのが64名と少なかった。その内容を類別すると次の通りである。

1）　現在の施設設備では実施出来ない。
2）　企業のニーズに対応した人づくりを目標にしている。
3）　従来通りの授業時数，内容でよい
4）　学級定員の改善をはかってほしい
5）　情報基礎は男女どちらでも担当できるようにする。また，指導面で無理はないか
6）　希望のもてる内容ではない。選択指定を望む，などである。

以上のように殆どが新教育課程の実施に伴う技術・家庭科の縮小を危惧する意見が多かった。

Ⅳ　まとめ

新教育課程についての意識を把握する目的で，県内の技術・家庭科担当教師を対象に意識調査を実施した。その結果を要約すると次の通りである。

1）　現行の技術・家庭科に改訂されてからすでに10年が経過し，その間の時代の進展や変化は本県においても著しく，新教育課程に対する関心と期待はかなり高いことが明らかになった。

2）　教科の目標については，「現在のままでよい」との回答が半数以上を占めているが，どのような能力を養うべきかについては技術系列担当教師と家庭系列担当教師の間に若干考え方

の相違がみられる。従って教科の目標は現行のまま総括的表現にし，さらに具体目標として技術分野と家庭分野とに区分し設定する必要があると思われる。

3）　木工，電気，食物，家庭生活の4領域を男女共に必修にすることについては「適切である」との回答は半数以下であることから，地域や学校の実態，生徒の実態などを考慮し，今後とも多角的に検討を要すべきものと思われる。

4）　内容の見直しについては、技術系列では「金工2」，家庭系列では「住居」と「被服1」という意見が多い。その主な理由は「限られた時間内で習得させることが困難である」，「将来その必要性が減少する」，「生徒があまり興味を示さない」などであった。

5）　情報基礎，家庭生活の新設については，いずれも約7割がその必要性を認めている。これからの生活に必要不可欠な領域であると受けとめているものと思われる。

6）　授業時数については少なくとも現行以上の時間数は必要であるとの考えが多かった。

7）　選択の「技術・家庭科」については，教科名の指定がなくなると「こまる」という意見が「こまらない」という意見よりわずかに多かった。「こまる」という理由は「授業時間数の削減や教員の削減につながる。」，「主要教科を選択する可能性がある。」，「体験的学習が出来なくなる。」などであった。

以上の結果から，次のことを提案したい。

1）　教科の目標は現行のまま総括的表現にし，さらに技術分野と家庭分野ごとに具体目標を設定すること。

2）　男女共に必修にする領域は，地域や学校の実態，生徒の実態などを考慮して弾力的に運用できるようにすること。

3）　「金工2」，「住居」，「被服1」の領域については，内容の見直しをすること。

4）　授業時数については少なくとも現行以上の時間数を確保すること。

5）　新教育課程が実施されることと関連して，技術・家庭科の教員養成の面からも早急に対応すること。

最後にこのたびの調査にご協力下さった県内中学校技術・家庭科担当の先生方に厚くお礼申し上げる。

なお本報告の概要は第30回日本産業技術教育学会全国大会（昭和62年7月23日）において発表した。

引用・参考文献

1）教育課程審議会　教育課程の基準の改善に関する基本方針について（中間まとめ）

2）第29回日本産業技術教育学会全国大会シンポジウム　教育現場における技術科のカリキュラム開発について

3）日本教育大学協会　全国技術・職業・職業指導部門　中学校における技術・家庭科の在り方について

4）村田　昭治　教育課程審議会中間まとめと技術・家庭科の課題　ＫＧＫジャーナル　Ｖｏ1.21　№10　Ｐ2～3

5）池本　洋一　教育課程の改善と技術・家庭科　ＫＧＫジャーナル　Ｖｏ1.22　№1　Ｐ2～3

資料　技術・家庭科の新教育課程に関する意識調査

Q 1　あなたはどの系列を担当していますか。
　1　技術　　2　家庭

Q 2　あなたの勤務地区はどこですか。
　1　那覇　　2　島尻　　3　中頭　　4　国頭　　5　宮古　　6　八重山

Q 3　あなたの学校は何学級ありますか。
　1　12学級以下　2　13～24学級　　3　25学級以上

Q 4　あなたの教職経験年数は何年ですか。
　1　0～10年　　2　11～20年　　3　21～30年　　4　31年以上

Q 5　あなたの得意とする領域と不得意とする領域を，担当系列について１つづつ選んで下さい。
【技術系列】　　得　意
1　木工　　2　金工　　3　機械　　4　電気　　5　栽培　　不得意
【家庭系列】　　得　意
1　食物　　2　被服　　3　住居　　4　保育　　不得意

Q 6　あなたは教育課程審議会で審議されている新教育課程について関心がありますか。
　1　非常に関心がある　　2　いくらか関心がある　　5　あまり関心がない
　4　関心がない

Q 7　技術・家庭科の目標は，現在　「生活に必要な技術を習得させ・・・・工夫し創造する能力及び実践的な態度を養う」とあるが，今後どのようにしたほうがよいと思いますか。
　1　１つの教科だから現在のままでよい
　2　技術分野と家庭分野とに区分し，それぞれの目標を明らかにしたほうがよい。
　3　新たに共通の目標を設けたほうがよい
　4　どちらでもよい。
　5　その他（　　）

Q 8　今後の技術・家庭科の教育では，主にどのような能力を養うべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものを次の中から２つだけ選んで下さい。

　1　社会生活に適応できる実践力や行動力
　2　良き消費者としての能力
　3　工夫し創造する能力
　4　基礎的知識・技術を生活に活用できる能力
　5　科学的根拠に基づいた思考力や判断力
　6　国際化時代に対処できる能力
　7　情報化時代に対処できる能力

8　その他（　　）

Q 9　改訂案によると木工，電気，食物，家庭生活の 4 領域を男女共に必修にするとなっていますが，あなたはどう思いますか。

1　適切だと思う
2　適切ではない……理由＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3　わからない

Q10　（Q 9 で 2 と答えた方に）　あなたはどの領域を必修にしたほうがよいと思いますか。あなたの担当する系列について 2 つ選んで下さい。

【技術系列】
1　木工　2　金工　3　機械　4　電気　5　栽培　　技術
6　情報基礎　7　その他（　　）
【家庭系列】
1　食物　2　被服　3　住居　4　保育　5　家庭生活　　家庭
6　その他（　　）

Q11　改定案の 4 領域が男女共に必修になった場合，学習の形態はどのようにしたほうがよいと思いますか。

1　男女共学がよい
2　男女別学がよい
3　学年・領域によって男女共学と別学にするのがよい
4　はっきりしない

Q12　現行の技術・家庭科の内容について，今後，見直すべきであると思われる領域をあなたの担当する系列について 1 つ選んで下さい。

【技術系列】
1，木工 1　2，木工 2　3，金工 1　4，金工 2　5，機械 1　6，機械 2
7，電気 1　8，電気 2　9，栽培　10，なし
【家庭系列】
1，被服 1　2，被服 2　3，被服 3　4，食物 1　5，食物 2　6，食物 3
7，住居　8，保育　9，なし

Q13　Q12で見直すべきであると答えた理由を選んで下さい。（複数選んでもかまいません）

1　将来その必要性が減少する
2　生徒の心身の発達段階に適していない
3　生徒があまり興味をしめさない
4　限られた時間内で習得させることが困難である
5　男女共修を進める上からふさわしくない
6　内容が細分化され多岐にわたっている
7　その他（　　）

Q14　新たに「情報基礎」,「家庭生活」の領域を設けることについてどのようにお考えですか。あなたの担当する系列について１つ選んで下さい。

【情報基礎】について　　情報基礎

1　必要である　　2　必要でない　　3　どちらでもよい　　□

4　その他（　　）

【家庭生活】について　　家庭生活

1　必要である　　2　必要でない　　3　どちらでもよい　　□

4　その他（　　）

Q15（Q14で１と答えた方に）あなたはどのような内容が適当だと思いますか。あなたの担当する系列について，重要と思われるものを２つ選んで下さい。

【情報基礎】の内容　　情報基礎

1　プログラミングの基礎　　□

2　コンピュータの基本的な構成と機能　　□

3　論理回路の基礎

4　コンピュータの利用と生活

5　データとその表現（２進数など）

6　その他（　　）

【家庭生活】の内容　　家庭生活

1　家族生活の意義　　□

2　家族と高齢者の世話　　□

3　自由時間の充実

4　商品の購入と消費

5　育児と結婚

6　その他（　　）

Q16　改訂案では授業時数が現在の２．２．３から２．２．２～３になっていますがどのようにお考えですか。

1　現行より減るのは望ましくない

2　現行よりも増やすべきである　　□

3　すくなくとも現行の時数は必要である。

4　その他（　　）

Q17　選択教科の中に「技術・家庭科」の指定がなくなることについてどのようにお考えですか。

1　こまる……理由＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2　こまらない　　□

3　その他（　　）

Q18　地域や学校の実態から見て、技術・家庭科の新教育過程について希望や意見がありましたら記入して下さい。